

実証の目的と実施内容

【目的】

- ✓ 通行量情報を活用しまちの状況を可視化・情報発信することで来街者がまちに安心して訪れるようにする
- ✓ 通行量情報と決済情報や犯罪情報等を掛けあわせ、まちの実態把握を行い、地域課題解決に役立てる

テーマ 3密回避	実施エリア 六本木	プロジェクト実施者 六本木商店街振興組合（プロジェクト代表者）、日本電気(株)、三井住友カード(株)、(株)ナビタイムジャパン
-------------	--------------	--------------------------------------------------------------------

① 通行量情報

スマート街路灯のカメラから方面別・性別・年代別の通行人数を収集



② 決済情報

統計化したカード利用情報を活用

③ 犯罪発生情報 行政データ

東京都オープンデータの町丁目・罪種別犯罪情報を活用

データ可視化・分析

混雑マップ発信

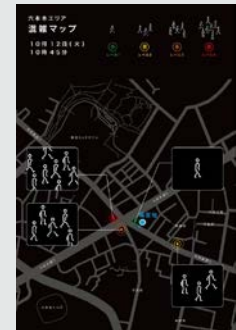
- スマート街路灯のサイネージ及び本事業HPにて六本木エリアの混雑状況をリアルタイムに発信

コロナ禍における通行量・消費の実態把握

- 2019年7月、2020年7月の通行量情報・決済情報を比較し、コロナ禍における通行量・消費状況の変化を分析

通行量と犯罪発生の関係性分析

- 2019年1月～2020年7月までの通行量と犯罪発生情報を分析



▲六本木エリアの街路灯サイネージ及び事業HPにて発信



▲六本木交差点大型ビジョンにて混雑マップ発信をPR

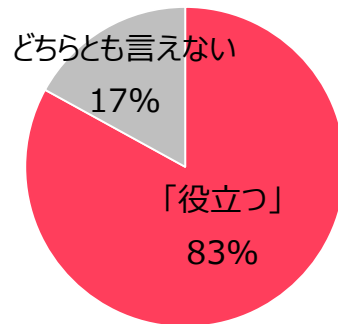
事業の成果と今後への期待

主要な 成果

混雑マップ配信への 評価を確認

- **来街者の83%が混雑マップの配信は「役立つ」と回答***

密集度の情報発信をどう思うか



通行量情報と他データの 掛けあわせ分析結果

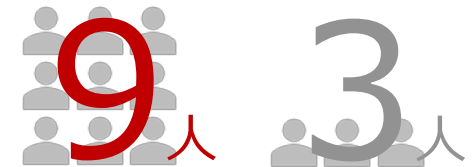
- 決済情報と掛けあわせることで、**通行量の減少による決済率増減（丁目別・業種別）で顕著な差を確認**
- 犯罪件数と掛けあわせ、**通行量と非侵入窃盗（路上における窃盗）は強い相関関係（相関係数0.76）があることが分かった**

他地域商店街における 活用ニーズを確認

- 他の地域商店街組合員12人のうち9人が通行量情報を利用して**まちの様子を見える化する取組を「役立つ」と評価**

役立つ

どちらとも言えない



実証を 踏まえて

- ✓ 【課題】まちの安全をアピールするため、スマート街路灯から得られる通行量情報を提示することは有効だが、混雑を避けて来街するといった人々の**行動変容につなげるためのITを活用した情報配信や効果検証などの環境整備が必要**
- ✓ 【発展性】本実証に対して他地域の商店街からの評価も高く、スマート街路灯等で収集する地域の通行量データの活用ニーズは極めて高く、整備が求められている
 - **データ整備のみでなく、街づくりに活かしていくためにデータ可視化ツール導入・データ分析人材・費用確保等のデータ活用に係る支援も必要**